

## 【国語】

1

素材は俵万智『生きる言葉』（新潮社 二〇二五年四月）、伊藤博「『後拾遺和歌集』と和泉式部」（岩波書店『新 日本古典文学大系8』附 月報 53 一九九四年四月）から採った文章である。

採録部分はいずれも、和泉式部の和歌「白露も夢もこの世もまぼろしもたとへていへば久しかりけり」について述べている。俵万智『生きる言葉』は、語りかけるような筆者の口調で「白露も」の歌の魅力を存分に語りつつ、短歌を含めた表現活動全体への態度が端的にまとめられている。同じ和歌を扱いつつも、伊藤博「『後拾遺和歌集』と和泉式部」は稍専門的な言い回しがあり、受験生に古典の知識を要請するものではあるが、前述の俵万智の文章との比べ読みを行うことで、中学卒業段階の受験者にとつても十分に読解可能であると考えられる。A I の台頭が著しい昨今、人間はどのように苦心して芸術作品を生み出してきたのか、そして今後どのように作り出していくのか、考えながら読みに当たることを期待するものもある。

出題のねらいは、主に論旨の展開に沿ってそれぞれの筆者の主張を正確に読み取る力を査定することにある。また、比べ読み形式の出題を設定することにより、思考力・判断力を査定する設問構成となっている。

### 【各設問のねらい】

- （問1） 基本的な慣用句の意味を的確に把握する能力。
- （問2） 文法の知識を踏まえ、品詞を正しく識別する能力。
- （問3） 文章の展開に即して、内容を的確に把握する能力。
- （問4） 文章の展開に即して、内容を的確に把握する能力。
- （問5） 文章の展開に即して、内容を的確に把握する能力。
- （問6） 文章の展開に即して、内容を的確に思考する能力。
- （問7） 二つの文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握する能力。

素材は戸谷洋志『メタバースの哲学』（講談社 二〇二四年九月）から採った文章である。採録部分では、メタバース（インターネット上の三次元仮想空間）を手がかりに、様々な論者の見解を引きつつ、メタバースが私たちのアイデンティティにどのような影響を与えるのかについて考察している。メタバースについては、近年 AR・VRと共に、高専を志望する受験生には関心が高い話題でもあるかもしれない。しかし、ここではその技術から作り出されるもう一人の自分が、現実に生きる自分とどう関わるのかという哲学的な問題に向き合っている。様々な論者の意見を筆者がわかりやすく紹介しつつ、比較検討しながら考察を深めることができ、中学卒業段階の受験生にも十分に読解可能であると考える。

思春期の時代に生きる受験生には、メタバースという場は、夢があり無意識に楽しい場として認識されているかもしれないが、なぜ楽しいのと思えるのか、技術的な面から離れて、改めて考えるきっかけにしてもらえればとも思っている。

出題のねらいは、論理的な文章における論理展開に沿って異なる主張を的確にとらえ、読み取る力を査定するところにある。また各論者の意見を比較検討することによって、思考力・判断力を査定する設問構成になっている。

#### 〔各設問のねらい〕

- （問1） 基本的な漢字を的確に把握する能力。出題範囲は、常用漢字の中の小・中学校学習漢字である。
- （問2） 文章の展開に即して、適切な接続詞を判断する能力。
- （問3） 文章の展開に即して、内容を的確に把握する能力。
- （問4） 文章の展開に即して、内容を的確に把握する能力。
- （問5） 文章の展開に即して、内容を的確に把握する能力。
- （問6） 文章の展開に即して、内容を的確に把握する能力。
- （問7） 文章を俯瞰的に捉え、論旨を的確に判断する能力。

素材は、村崎なぎこ『オリオンは静かに詠う』（小学館 二〇二五年一月）から採った文章である。本作は、ろう学校の生徒である木花咲季と、聴覚障害の親を支える「コーダ」のカナを中心に、それぞれが抱える孤独や過去の傷を乗り越えていく物語である。咲季の担任である白田先生や、カナの伯母であるママンも二人を支えながら、競技かるたを通して「音のない世界」と「聞こえる世界」との壁を越えていく過程が描かれ、登場人物それぞれの成長が丁寧に描き取られている。採録部分は、咲季が大会に参加し、健常者と対等の立場で戦って勝利を収め、自信を得る場面である。

二〇二五年は東京デフリンピックが開催され、聴覚障害への理解と啓発がいつそう推進された年であったと言える。本題材は、題材としての難易度やテーマ性に加え、こうした社会的背景も含めて採択したものである。

出題のねらいは、登場人物の心情を的確に捉え、読み取る力を査定する点にある。文章は比較的平易であり、中学卒業段階の受験生にも十分に読解可能である。ただし、引用箇所が些か長文であるため、心情の把握を丁寧に行う必要がある。

### 〔各設問のねらい〕

- （問1） 基本的な慣用句の意味を踏まえて、人物の心情を的確に把握する能力。
- （問2） 文章の展開に即して、人物の心情を的確に把握する能力。
- （問3） 表現の効果を的確に把握し、人物の心情を正しく判断する能力。
- （問4） 表現の効果を的確に把握し、人物の心情を正しく判断する能力。
- （問5） 文章の展開に即して、人物の心情を的確に把握する能力。
- （問6） 文章の展開に即して、人物の心情を的確に把握する能力。